

ウエルカムBON三兄弟



毎年6月も下旬になりますと、当寺では舟に乗った「ウエルカムBON三兄弟(ウルトラマン兄弟お二人とカオナシ)」が登場し、盂蘭盆の諸行事をお知らせしております。

岐阜の盂蘭盆は東濃地方と岐阜市の中央部の一部が7月盆ですので、7月初旬から始まり8月下旬まで施餓鬼会等のお盆のお参りが続きます。阪神タイガースの「死のロード」15連戦より長い夏の日です。7月盆はまだ体が夏の暑さに十分慣れていません。早寝をして体調を整えなければなりません。



今年も7月13・14日、東濃地方の盆参りをさせていただき、山間部の集落80軒の檀家さん宅を訪ねました。檀家さんから檀家さんへ坂道を歩くお参りとなりますが、濃尾平野の中



央部分で生活している私にとっては毎年新し

い発見がありわくわくします。当方では蓮根の産地が近くにあるためお盆の御供えは蓮の葉っぱを敷き野菜等をのせます。多少の殺菌作用もあるようです。それに比べ東濃地方では山に自生する桐の葉っぱが敷かれています。桐の葉っぱはやわらかく蓮に負けない程巨大なものです。同じ山の葉っぱでは、自家製の「朴葉寿司」がお供えしてあります。朴葉も同じく大型ですがその形に何とも言えない愛嬌があり詩人の坂村真民さんも愛しました。よく洗った朴葉に寿司飯を盛り好みの具材を載せます。以前は山菜や野菜を甘辛く煮たものが主な具材でしたが、最近では奈良の「柿の葉寿司」の如く、



鰯やサーモンなどが新しい具材に加わりました。読経が終わるとお供養で朴葉寿司を勧められます。それを丁重にお断りしなければなりません。そのお家によっては朴葉を広げるとその具に「へボ(クロスズメバチの蜂の子)」が入っています。きっと美味だと思いますが、私は見た目がどうしても苦手です。

ご年配の方のお話では、朴葉寿司が作られるようになったのは比較的最近のことだそうです。昔は朴を枝ごと取って来て、枝についた葉でお餅を包み、それを煮えたぎった大釜の熱湯に枝ごとくぐらせ風にさらしたものをお供えしたそうです。枝に朴葉餅がいくつもぶらさがった光景はおもしろそうです。俊徳丸